

(款) 50消防費 (項) 5消防費 (目) 10非常備消防費

◎消防団の経費

消防団活動事業

【 消防総務課 】

【総合計画上の位置づけ】

安全で快適な生活が送れるまち

地域安全: 災害対策、交通事故や犯罪などへの安全対策が進められているまち

【事業の目的】

対象 消防団員等

意図 消防団活動の円滑化及び組織の活性化を図るため。

効果 消防力の充実強化をめざす。

【事業の内容】

(1) 消防団活動事業

・ 消防団員の出場費用弁償等消防団の活動に係る経費を支出した。

(2) 本団・分団助成事業

・ 消防団事業計画に基づく、団員の教育訓練研修、各市との情報交換、消防機材及び器具置場の維持管理など、本団・分団事業に要する経費を交付金として助成した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
20,824	22,082	21,869		213
主な支出内訳				
・ 消防団活動事業				
優良団員等報償金				146
年末年始特別警備報償金				512
団員出場費用弁償				14,168
小型動力ポンプ付積載車等燃料費				297
自動車保険料				506
公課費(自動車重量税 11台)				416
・ 本団・分団助成事業				
本団維持費交付金				1,630
分団維持費交付金				2,927

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	<input type="checkbox"/> サービス部門 <b>消防-05 消防団活動事業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	232 消防団活動事業					
		234 本団・分団助成事業					
主管課	消防総務課		関連課				
分野名	地域安全						
目標 (目標値)	消防団活動の充実						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	21,869千円	20,200千円	21,576千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	21,869千円	20,200千円	21,576千円			
	人員配置数	0.6人	0.6人	0.5人			
	人件費	5,635千円	5,809千円	4,832千円			
事務事業 運営経費	総事業費	27,504千円	26,009千円	26,408円			
	市民1人当 りの経費	156円	148円	150円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・サラリーマン団員や市外で仕事をしている団員の増加に伴い、日中に災害が発生した場合の出場人員が限られてしまう。 ・常備消防隊と消防団との連帯訓練の実施。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・各分団に対して、最低限出場することができる人員の確保について依頼している。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・常備消防隊と消防団との連帯訓練の実施。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・常備消防隊と消防団は、普段接する機会が少ないため、コミュニケーションづくりを心がけ、合同訓練などの機会を増やしていく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 無
	年間の消防団活動事業の内容を見直し、訓練の機会を増やすなど検討していく。				
担当課長氏名:		堀 英彦			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 無
	機械器具装備の充実を図るとともに、訓練の機会を増やし、訓練を通じて機器の取扱いを習熟させる。				
担当部名	消防本部	部長名	畑 光則		